



NPOフォーラム・だより No.5

2006. 1. 10

NPO法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム
〒294-0047 千葉県館山市八幡 822 TEL&FAX:0470-22-8271
npo@internet-ex.com <http://www.internet-ex.com/npo/index.html>

謹んで新春の寿ぎをお慶び申し上げます。

成年の2006年はドラマ『里見八犬伝』で幕が開き、安房・里見の知名度があがりました。里見にちなんだツアーガイドの依頼も増えています。ドラマの最後には、里見の殿が「安房は戦のない安らかな地」と言うセリフがありました。中世の戦跡ともいえる里見氏城跡群と東京湾要塞の戦跡。両方の文化遺産から、先人たちの培った「平和・交流・共生」の精神を受け継ぎ、その理念を活かした地域づくりにますます皆様のご協力をお願いいたします。

○ NPO連絡懇談会 … 毎月第1火曜日 18時より夕日海岸ホテルにて

NPOの情報伝達や会員相互の意見交換の場。よりよい組織運営のために、ふるってご参加ください。

○ 館山地区公民館 戦跡調査保存サークル

※ 諸般の事情により、1・2月は平日になりますがご了承ください。

【日時・場所】 2006年1月31日(火)・2月28日(火) 13:20～ 館山地区公民館集合

フィールドワーク ～ 前回に引き続き、館山地区内の戦前の痕跡を探して歩きます。

○ 「里見ガイド講習会 ～ 房総里見氏の史跡と「里見八犬伝」の舞台」

【ガイダンス】 2006年1月26日(木) 19:00～20:30 館山コミュニティセンター

【全14回】 現地フィールドワーク、課題発表会、実習など 【参加費】 一般 3,000円

【講師】 岡田晃司氏 (館山市立博物館学芸係長) **※ 参加申込はガイダンスにて**

○ 「わたしたちの稲村城跡大発見 ～ 歩いて発見・聞いて発見・話して発見」

里見氏稲村城跡の保存運動が始まって10年。念願の国指定史跡化に向けて新たな動きが起きています。地域の皆様とともに、催しを企画しました。NPO会員はスタッフとしてのご協力をお願いします。

【日時】 2006年2月4日(日) 10:00～16:00 **※ スタッフは 8:30 館野小学校に集合!**

【集合場所】 9:45～「九重そば」先の「成勇」向かい空地 / 12:30～館山市立館野小学校講堂

【参加費】 午前:100円(マップ・保険料) / 午後:無料(資料冊子は別途有料頒布)

- ◆ 第一部 歩いて発見*フィールドワーク 稲村城跡を歩く ◆ 第二部 聞いて発見*講演
- ◆ 第三部 話して発見* 地元地区の皆さんと座談会
- ◆ 同時開催 ① “わたしたちの稲村城跡大発見” 展示会(立体模型、パネル、写真、手作り甲冑など)
② “里見氏お宝鑑定” ～ ご自宅にある古文書・写真などを専門家が鑑定します。

NPO新年会 (旧正月)

2月4日(日) 18:00～ たてやま夕日海岸ホテル・月灯り 参加費 3,000円

○ 「ふるさと再発見！ 地図づくり講座」

… 主催：中央公民館

【日 時】 1月17日、2月14日、3月14日、28日 13:30～16:00 座学～館山市コミュニティセンター
1月31日、2月28日 13:30～16:00 フィールドワーク～館山地区

※ 連続講座です。参加希望者は、館山市中央公民館(0470-23-3111)までお申送ください。

○ 「食文化フォーラム ～ 作ってみんな、食ってんべえ、安房の味」

館山市補助事業の一環として、料理教室を実施します。参加申込みは、中央公民館(23-3111)まで。

【日 時】 2006年1月23日(月) 9:30～13:00 (試食会含む)

【場 所】 館山市コミュニティセンター2F栄養指導実習室 【参加費】 500円 (材料費込み)

【メニュー】 南総里見海のおやき、まほろばの里おやき、ふわふわツミレ汁、お楽しみデザート

【講師】 鈴木静子さん・長田敬子さん・杉田克枝さん (館山市保健推進員)

佐々木嘉恵さん (生涯学習家庭料理インストラクター)

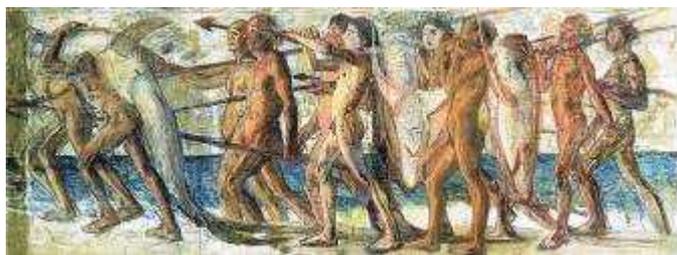
○ 合唱組曲『ウミホタル』 公開練習

【日時・場所】 2006年1月14日(土)・28日(土) 13:00～15:30 南総文化ホール練習室

【参加費】 各回500円 (通信費・会場費等に充当) ※ジュニアは無料

● “青木繁<海の幸>100年” から布良・相浜を見つめる集い = Report =

2005年12月4日、NPO会員の豊崎栄吉さんからの発案で、富崎地区連合区長会とコミュニティ委員会の共催により実施。小雨降るなか、午前中、安房節・鮪延縄漁発祥の碑、富士見の地蔵、駒ヶ崎神社、御染弁財天、青木繁『海の幸』記念碑、小谷邸などゆかりの地をNPOのガイドメンバーによるフィールドワーク。午後は、富崎小学校児童による安房節の演奏と、青木繁の調べ学習発表につづき、東京文化財研究所・田中淳氏による講演と地区住民による座談会。NPOのメンバーもスタッフとして活躍し、参加者は約100名であった。



田中氏は、『海の幸』にまつわるエピソードを紹介するとともに、この地が神話の里であり、安房神社があったことが、青木の古代神話世界への憧憬に影響があったかもしれないことを示唆した。

座談会では、布良出身のエッセイスト・山口栄彦氏は「離れてみてこの地域の素晴らしさを再発見

した。子どもたちに地域の誇りをぜひ伝えたい」と語り、吉田昌男連合区長会長は「命がけの漁から帰った男たちの喜びが絵にあふれている」と漁師ならではの発言。青木滞在住宅の当主小谷栄氏は、当時6歳だった母親から聞いたエピソードを披露し、「100年前の家をこのまま残したい」と語った。豊崎氏は、青木生誕の九州久留米からの来訪者に「青木の海はどこですか」と訊ねられた出会いを紹介。彫刻家船田正廣氏は、2004年に『海の幸』レリーフを制作し終えた瞬間、青木の制作年からちょうど100年目であることに気づいたという。また、青木没後50年に『海の幸』記念碑を建立した際、市の担当者として苦労された鈴木栄氏は、碑の重要性と建立秘話を紹介。「青木繁『海の幸』ゆかりの地」と碑に刻まれた揮毫は日展初代理事長・辻永氏の筆により、「美術振興の道標として」「一つの芸術作品として」建てられたものであるという。地元区では碑の保存を強く願っており、参加者からも賛同の拍手があがった。



(設計者は海外の近代建築哲学を翻訳紹介した東大教授・生田勉氏)